

ほのほのたより

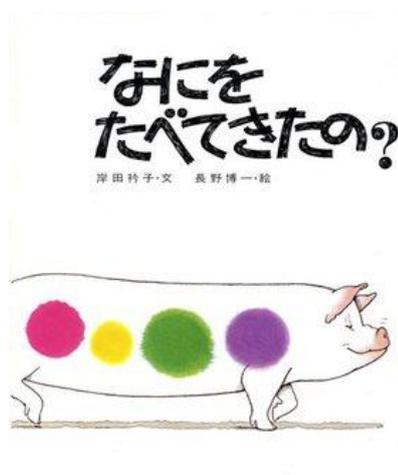
～ 会話がはずむおすすめの絵本 ～

今月は、ページを進めていく中、親子の会話が自然と増えていく、そんな絵本を紹介します。子ども達と一緒に「次はどうなるかな」「あ、ハチがでてきたね」など、会話がはずみます。おすすめの3冊です。

「なにをたべてきたの？」（乳児クラス向け）

出版社：佼成出版社
作：岸田 衿子
絵：長野 博一

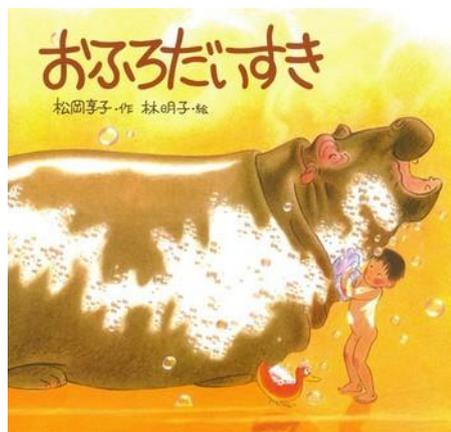
おなかのすいた、くいしんぼうのぶたさんがお散歩に出掛けます。たべものにであうと、「いただきます」とパクパクパク……。あらら、不思議？体の色が変わっていきます。子どもの指さしや言葉に、こたえていきながら読んでいます。



「お風呂だいすき」（幼児クラス向け）

出版社：福音館書店
作：松岡 享子
絵：林 明子

「ぼく」が、だいすきなおもちゃの「プッカ」と一緒にお風呂に入っていると「こんにちは」、「ここは海ですか」、「ふわぁあ～」といろんなどうぶつがやってきます。思わず笑ってしまう場面や、家族みんなでお風呂に入りたくなるような、そんな絵本です。



「100かいだてのいえ」（幼児クラス向け）

出版社：偕成社
作・絵：いわい としお

「とち」くんのところに、おてがみが届きます。「100階だてのいえ？誰だろう？」とおてがみの地図をたよりに出掛けます。100階だてのいえにつき、1階からのぼっていく「とち」くん。それぞれの階に、住人がいます。「20階は、00だね!!」と会話のはずむ、読みごたえのある絵本です。

